

平成24年度

学校評価アンケート のまとめ

1. 今年度の学校評価について
2. 生徒による授業評価
3. 生徒による学校評価
4. 保護者による学校評価
5. 教職員による学校評価
6. 地域による学校評価
7. 学校関係者評価

横浜市立南高等学校

1. 今年度の学校評価について

本校では、平成16年度に学校評価システム研究モデル校の指定を受け、平成17年度からは学校評価推進校として学校評価システムの研究を継続的に推進してきた。

今年度の学校評価は、横浜市教育委員会が策定した「横浜市立高等学校学校評価ガイド」に従って実施した。

内容は以下の3点である。

- 1、自己評価
- 2、学校関係者評価
- 3、第三者評価 平成24年度の内容は、平成25年度の6月予定

(1) 今年度の主な取り組み

実施月	内 容
4月	学校経営計画の作成
5月	学校評価部会の発足
6月	第三者評価の実施(平成23年度の内容)
8月	学校関係者評価委員会の発足
9月	第三者評価の公表
10月	評価項目の見直し、市教委による第2回説明会
11月	職員・生徒・保護者による学校評価・授業評価の実施 学校評価・授業評価の集約
12月	学校評価・授業評価の集約 年度末反省アンケートの実施
1月	教育活動の観察および評価結果を活用して『自己評価の分析と課題』の作成
2月	平成25年度の学校評価計画案の作成
3月	『自己評価の分析と課題』から改善点の作成 『自己評価書』の作成。教育委員会への報告

(2) 評価の方法

各評価シートは「横浜市立高等学校学校評価」で指定された形式を基本としたが、一部は本校独自の表現に合わせて語句を書きかえた。市教委が提示した今年度評価項目が今年度多く変化し、項目数も減少した。

各評価シートのデータは、①生徒による授業評価 ②生徒による学校評価 ③保護者による学校評価 ④教職員による学校評価の4種類ともスキャナーを使用して集計した。各評価について「そう思う」と「ややそう思う」の合計70%を目標値として考察を行った。

(3) 今後に向けて

平成23年度末に今年度の学校評価に関する計画を立てたが、今年度から学校運営協議会が発足し、学校関係者評価に関する内容も学校運営協議会の委員の方々に行っていただくことになった。

委員からは年間計画にあたり、11月のアンケートから学校内での検討、それに付随するデータの提示などをするようご意見があった。また、アンケートが市で統一されているのであれば、他校との比較検討も必要ではないかと指摘され、今後、市教育委員会を通して他校のデータの収集を行うことも必要であると考えている。

2. 生徒による授業評価

(1) 生徒による授業評価実施科目

今年度は全教科・全科目について授業評価を実施した。

	1 年 次	2 年次	3 年次
国 語	国 語 総 合	現代文 古典 2・3	現代文 古典 2・4 現代評論研究 国語表現Ⅱ
地理歴史	世 界 史 A	日本史 A 日本史 B 地理 A	日本史発展 世界史 B 世界史発展 地理発展
公 民	現代社会	政 治 経 済	倫 理 政 経 発 展
数 学	数学Ⅰ A	数学Ⅱ B	数学Ⅲ C 数学応用 A, B
理 科	化学基礎 A	物理Ⅰ } 化学Ⅰ } の選択 生物Ⅰ } した科目 地学Ⅰ } 1科目	物理Ⅱ 物理応用 生物Ⅱ 生物基礎 化学Ⅱ 化学基礎 生物応用 化学応用
保健体育	体 育 健 保	体 育 健 保	体 育
芸 術	音楽Ⅰ } 美術Ⅰ } の選択 書道Ⅰ } した科目	音楽発展 素描 書道発展	音楽探究 演奏法 α, β 美術探究 工芸 素描 研究 実用の書 漢字の書
外国語	英 語 I	英 語 II ライティング 生活英語	リーディング ライティング 英語表現 時事英語
家 庭	家 庭 基 礎	家庭生活実習	フード ファッション 家庭福祉
情 報	情 報 A		

※全科目で評価を行った。

※各教科各学年の指標にまとめた。科目事、クラス事の評価は各教科担当に持ち帰り反省材料とし授業力の向上に繋げた。

(2) 評価項目と解答肢

基本的な質問項目

◎ 評価項目 1-自分自身について

- 問 1 予習復習など学習の準備をして意欲的に学習に取り組んでいる。
 問 2 授業で学習した内容はだいたい理解または習得できている。
 問 3 主体的・積極的に授業に参加している。

◎ 評価項目 2-授業や先生について

- 問 4 生徒に学力を身につけさせようと、授業に熱心に取り組んでいる。
 問 5 学習の狙いがはっきりしていて、内容の組み立ても適切である。
 問 6 板書、プリント、教材の使い方はわかりやすいですか。
 問 7 生徒に公平に接し、理解しようとしていますか。
 問 8 評価方法や評価基準についての説明は十分行われた。
 問 9 授業の年間計画が説明され、授業もその内容に準じて行われている。
 問 10 発問や説明が適切でわかりやすい。

各教科・科目により学習の状況が異なっているので、問の内容が異なる教科もある。

- 芸術科 問 1 授業に必要な用具を準備して意欲的に学習に取り組んでいる。
 問 4 生徒に芸術的な技能と完成を高めさせようと授業に熱心に取り組んでいる。

保健体育科の体育

- 問 1 授業に必要な用具の準備などをして意欲的に学習に取り組んでいる。
- 問 4 生徒に技術や体力を身につけさせようと、授業に熱心に取り組んでいる。
- 問 6 削除し、他の項目を1つずつ繰り上げ、9問とした。

- 家庭科 問 1 授業に必要な用具を準備して意欲的に学習に取り組んでいる。
 問 3 主体的・積極的に取り組み、課題を提出できた。

◎ 評価の選択肢 そう思う、ややそう思う、あまりそう思わない、そう思わない

(3) 集計結果および各教科の考察と今後の課題・改善策

◎ 国語科 ★評価項目に関しては P.2 を参照してください。

No	1年次						2年次						3年次					
	総数	そう思う	やや	あまり	思わない	目標70%	総数	そう思う	やや	あまり	思わない	目標70%	総数	そう思う	やや	あまり	思わない	目標70%
1	195	21	78	78	18	50.8%	608	66	247	221	74	51.5%	648	81	221	213	133	46.6%
2	195	24	97	68	6	62.1%	607	84	308	182	33	64.6%	648	136	324	145	43	71.0%
3	195	48	91	50	6	71.3%	607	78	327	171	31	66.7%	647	119	285	179	64	62.4%
4	195	87	95	11	2	93.3%	608	178	292	112	26	77.3%	648	332	243	56	17	88.7%
5	195	55	111	26	3	85.1%	607	122	297	147	41	69.0%	648	262	256	96	34	79.9%
6	195	70	84	35	6	79.0%	608	154	265	137	52	68.9%	647	281	241	88	37	80.7%
7	195	106	76	11	2	93.3%	608	160	314	100	34	78.0%	648	341	229	53	25	88.0%
8	195	44	106	39	6	76.9%	608	125	303	155	25	70.4%	647	239	285	96	27	81.0%
9	195	34	97	56	8	67.2%	608	107	301	165	35	67.1%	648	240	281	94	33	80.4%
10	195	72	95	22	6	85.6%	607	139	285	135	48	69.9%	646	277	258	81	30	82.8%

(a) 取組

- ・各年次 生徒1について・・・家庭学習のための意味調べプリント、漢字や古典文法小テスト等の定期的な実施、ノート・古典問題集等提出、などにより、予習・復習を習慣付け、学習意欲を喚起させる。
- ・各年次 生徒2について・・・授業内容の精選と家庭学習の促進。
- ・各年次 生徒8について・・・昨年度の授業評価で低い数値であったため、年度当初・学期末等に評価方法等の説明を各教員が行った。
- ・各年次 生徒9について・・・昨年度の授業評価で低い数値であったため、年度当初・学期末等に年間計画の説明を各教員が行った。

(b) 成果

- ・各年次 生徒1について・・・十分な成果はあがっているとはいえない。
- ・各年次 生徒8について・・・目標値に達した。
- ・3年次 生徒2・8・9について・・・目標値に達した。

(c) 課題

- ・各年次 生徒1について・・・家庭学習の習慣を付けさせる。
- ・各年次 生徒2について・・・1、2年次において、授業内容の理解度をあげる。
- ・各年次 生徒8・9について・・・上記の取り組みを継続し、生徒の理解を十分深めていく。

(d) 改善策

- ・各年次 生徒1について・・・上記の取り組みを継続すると共に、生徒の学習意欲を喚起させる指導を行う。
- ・各年次 生徒2について・・・授業内容の精選とともに、学習内容を定着させるための家庭学習課題等を準備する。
- ・各年次 生徒9について・・・年間計画の説明を適宜行い、生徒に浸透させる。

◎地歴・公民科 ★評価項目に関しては P.2 を参照してください。

No	1年次						2年次						3年次					
	総数	そう思う	やや	あまり	思わない	目標70%	総数	そう思う	やや	あまり	思わない	目標70%	総数	そう思う	やや	あまり	思わない	目標70%
1	384	28	105	165	86	34.6%	729	43	227	311	148	37.0%	465	70	137	141	117	44.5%
2	384	33	130	157	64	42.4%	729	61	346	245	77	55.8%	465	89	188	133	55	59.6%
3	383	62	155	135	31	56.7%	728	112	362	190	64	65.1%	464	91	199	120	54	62.5%
4	384	91	166	88	39	66.9%	729	200	370	113	46	78.2%	465	253	184	22	6	94.0%
5	384	74	145	97	68	57.0%	729	181	364	123	61	74.8%	463	228	198	30	7	92.0%
6	384	106	120	71	87	58.9%	729	208	313	133	75	71.5%	464	220	188	41	15	87.9%
7	384	109	182	62	31	75.8%	728	191	398	97	42	80.9%	465	239	184	33	9	91.0%
8	383	53	172	110	48	58.7%	729	184	363	134	48	75.0%	465	215	211	30	9	91.6%
9	383	59	149	113	62	54.3%	729	142	351	175	61	67.6%	464	216	202	35	11	90.1%
10	382	83	137	92	70	57.6%	729	181	367	106	75	75.2%	463	220	182	38	23	86.8%

(a) 取組

「分かる授業」を心がけるとともに、「板書・プリント」等、見せるモノへの配慮と工夫し、生徒の学習意欲をより継続的に維持・向上させる取り組みを行う。また、「授業公開」を積極的に活用するなど、教員相互の情報交換・修養・研鑽により、積極的に「よいもの」を取り入れる努力をする。年度当初に、「年間計画」「評価方法」を提示するようこころがける。

(b) 成果

23年度の授業評価に比べ、1年は全体的に下がり、2年は横ばい、3年は4以下の質問項目で改善がみられた。

(c) 課題

1年の「世界史A」については、近代以降を中心に展開している。生徒たちにとっては中学にはない世界史はなじみがうすく、はじめから苦手意識をもつものが多いようである。また近現代史中心の展開は、政治学・経済学に関する知識も必要であり、より生徒の理解を難しくしている。

1年の「現代社会」については、本校で今年度初めて開設された科目である。評価項目9の年間計画に関する評価が低いようであるが、研究しながら授業を行っていることの影響があるかもしれない。

3年の「倫理」については評価項目1～3が低い。本校教育課程では3年に置かれている唯一のクラス単位での必修授業である。進路に直接かかわりのない科目に対する学習意欲は低くなるので、こうした結果になっている。興味関心をもてる教材づくりが必要である。

(d) 改善策

年度当初に、「年間計画」「評価方法」を具体的に提示するようこころがける。

「分かる授業」をめざすとともに、生徒に興味関心を持たせる教材の研究をすすめる。

◎数学科 ★評価項目に関しては P.2 を参照してください。

No	1年次						2年次						3年次					
	総数	そう思う	やや	あまり	思わない	目標70%	総数	そう思う	やや	あまり	思わない	目標70%	総数	そう思う	やや	あまり	思わない	目標70%
1	194	47	95	46	6	73.2%	318	37	121	107	53	49.7%	188	30	78	55	25	57.4%
2	194	43	93	51	7	70.1%	318	40	139	111	28	56.3%	188	33	100	43	12	70.7%
3	194	64	100	29	1	84.5%	317	53	148	86	30	63.4%	188	40	80	51	17	63.8%
4	194	105	68	17	4	89.2%	318	97	153	61	7	78.6%	188	91	74	16	7	87.8%
5	194	95	70	25	4	85.1%	318	74	156	74	14	72.3%	187	81	73	23	10	82.4%
6	194	95	65	26	8	82.5%	318	71	142	81	24	67.0%	188	78	75	23	12	81.4%
7	194	90	73	22	9	84.0%	318	86	145	63	24	72.6%	188	84	86	15	3	90.4%
8	194	80	85	26	3	85.1%	318	70	169	64	15	75.2%	188	73	90	21	4	86.7%
9	194	86	69	33	6	79.9%	318	80	163	55	20	76.4%	188	74	89	22	3	86.7%
10	194	93	59	28	14	78.4%	318	78	136	76	28	67.3%	188	86	73	19	10	84.6%

★数学I・数学Aは同一科目として集計

(a) 取組

アンケート番号 1・3

授業理解と授業に積極的に参加させるために、1・2年次では剥ぎとり式の問題集を宿題にしたり、ノート提出をテスト毎に行った。ノート提出の評価基準について、年度当初に教員間で打ち合わせを行った。

アンケート番号 8・9

4月当初だけでなく、テスト前後などに、評価方法・基準、年間計画について折に触れて説明を行った。

(b) 成果

23年度よりノート確認の評価を引き上げたことや剥ぎ取り式の問題集を宿題にすることで、生徒が意欲的に学習に取り組むようになってきている。

評価方法・基準、年間計画については、年間を通じて説明することで、生徒に伝わるようになってきた。

(c) 課題

家庭学習をどのように定着させていけばよいのかが課題である。

(d) 改善策

1・2年次では今後も剥ぎ取り式の問題集を宿題にしていくことで、少しずつ家庭学習の時間を増やすようにしていきたい。

◎理科 ★評価項目に関しては P.2 を参照してください。

理科	1年次						2年次						3年次					
	No	総数	そう思う	やや	あまり	思わない	目標70%	総数	そう思う	やや	あまり	思わない	目標70%	総数	そう思う	やや	あまり	思わない
1	192	24	70	76	22	49.0%	439	21	184	169	65	46.7%	249	33	99	87	30	53.0%
2	192	34	73	73	12	55.7%	439	35	235	145	24	61.5%	249	46	140	48	15	74.7%
3	192	33	93	55	11	65.6%	439	69	228	121	21	67.7%	249	63	109	56	21	69.1%
4	192	59	89	36	8	77.1%	439	131	213	77	18	78.4%	249	166	70	10	3	94.8%
5	192	39	99	44	10	71.9%	439	109	219	88	23	74.7%	249	150	84	12	3	94.0%
6	192	57	71	44	20	66.7%	439	124	191	90	34	71.8%	249	128	100	19	2	91.6%
7	192	75	85	26	6	83.3%	439	133	206	77	23	77.2%	249	151	84	11	3	94.4%
8	192	47	81	53	11	66.7%	439	72	257	89	21	74.9%	249	119	109	15	6	91.6%
9	192	37	87	56	12	64.6%	439	61	250	101	27	70.8%	249	116	109	22	2	90.4%
10	191	49	84	39	19	69.6%	438	109	212	81	36	73.3%	248	148	87	11	2	94.8%

(a) 取組

教科内での、進度の調整・授業内容の確認・評価の基準など詳細に打ち合わせを行った。

基礎となる科目（一年次）では共通の教材や自作問題などを共有し、全生徒への基礎力定着を図った。二・三年次では共通の実験や課題を取り入れ、生徒への基礎知識定着を図った。

50インチ画面を利用し、パワーポイントによる教材、実験の映像など視覚的な教材を利用した。

(b) 成果

生徒の授業評価では、23年度より24年度の方が全体的に評価が高くなった。

22年度の課題であった⑧「評価方法や評価基準」、⑥「板書、プリント、教材」や⑤「学習の狙い」の項目では、23年度に引き続き24年度も改善傾向がみられた。（生徒アンケートより）

教材の工夫により、短時間で少しでも分かりやすい教材として授業を行うことができた。また、興味関心を高め、意識づけに効果があった。

(c) 課題

家庭学習の定着はいま一つである。（生徒アンケートより）特に低学年からしっかりと学習習慣を身につけさせる必要がある。

必修授業での能力差ややる気に差が大きい。

(d) 改善策

家庭学習の課題や小テスト、長期休業中の補習などを充実させる。

実験実習の準備時間や教材研究や教材の情報交換の場を数多く確保し、より分かりやすい授業になるよう努力する。

電子黒板の積極的な利用、巡検・実験・実習など主体的な学習を充実させる。

◎保健・体育科 **保健** ★評価項目に関しては P.2 を参照してください。

保健	1年次						2年次					
	No	総数	そう思う	やや	あまり	思わない	目標70%	総数	そう思う	やや	あまり	思わない
1	193	13	47	82	51	31.1%	315	28	101	108	78	41.0%
2	193	35	106	46	6	73.1%	315	41	179	79	16	69.8%
3	193	59	86	42	6	75.1%	314	52	178	72	12	73.2%
4	192	83	91	16	2	90.6%	315	106	172	29	8	88.3%
5	193	75	98	15	5	89.6%	315	77	182	48	8	82.2%
6	193	100	67	18	8	86.5%	315	67	186	54	8	80.3%
7	193	95	89	7	2	95.3%	314	97	178	31	8	87.6%
8	193	52	91	43	7	74.1%	315	63	187	57	8	79.4%
9	193	57	88	41	7	75.1%	315	65	176	64	10	76.5%
10	193	80	88	18	7	87.0%	313	80	186	38	9	85.0%

(a) 取組

一年次…「現代社会と健康」について、各担当者が工夫を凝らしてプリントや パワーポイントを作成し授業を展開した。

二年次…「環境と健康」について、グループでテーマを設定しポスターセッションを行った。

(b) 成果

一年次…「板書、プリント、教材の使い方がわかりやすい」についての評価で半数以上の51.8%の生徒が「そう思う」と回答したほか、全体的に90%前後の高い評価であった。

二年次…全体的に評価の目標である70%を超え、80%前後の評価であった。

(c) 課題

生徒から全体的に高い評価を得ました。教材研究はもちろんのこと、授業の展開方法など、教員間でさらに情報を共有しながら保健の大切さを伝え、興味・関心の持てる授業づくりを目指します。

(d) 改善策

教材研究に努め研修会等にも積極的に参加し、よりよい授業づくりに役立てたい。

◎保健・体育科 **体育** ★評価項目に関しては P.2 を参照してください。

体育	1年次						2年次						3年次					
	No	総数	そう思う	やや	あまり	思わない	目標70%	総数	そう思う	やや	あまり	思わない	目標70%	総数	そう思う	やや	あまり	思わない
1	192	112	70	7	3	94.8%	314	122	148	36	8	86.0%	408	270	118	12	8	95.1%
2	192	77	90	21	4	87.0%	314	113	163	31	7	87.9%	408	255	134	18	1	95.3%
3	192	123	58	8	3	94.3%	313	146	135	26	6	89.8%	407	304	97	6	0	98.5%
4	192	142	48	1	1	99.0%	314	130	159	22	3	92.0%	407	294	95	10	8	95.6%
5	192	110	74	7	1	95.8%	314	106	170	34	4	87.9%	408	276	103	21	8	92.9%
6	192	113	67	9	3	93.8%	314	125	161	21	7	91.1%	408	294	90	14	10	94.1%
7	192	61	87	33	11	77.1%	313	71	161	71	10	74.1%	408	247	114	34	13	88.5%
8	192	116	64	9	3	93.8%	313	113	163	31	6	88.2%	408	272	107	18	11	92.9%
9	192	100	73	15	4	90.1%	312	97	171	39	5	85.9%	407	267	112	13	15	93.1%

(a) 取組

- 一年次 各種目の基礎・基本を学び定着させる
- 二年次 前期は各種目の基礎・基本の定着を図り、後期は自らの興味・関心で種目を選択しより活発な活動をする
- 三年次 種目選択制授業で生涯スポーツに繋げる

(b) 成果

各年次とも授業に取り組む姿勢、学習内容の習得は良好である。

(c) 課題

授業評価から二年次の「主体的・積極的に授業に参加している」の「そう思う」と回答したのが46.6%と低く、一年次の64.1%、三年次の74.4%とかなりの差があること

(d) 改善策 二年次の学習意欲をより高められるように取り組む。

◎芸術科 ★評価項目に関しては P.2 を参照してください。

No	1年次						2年次						3年次					
	総数	そう思う	やや	あまり	思わない	目標70%	総数	そう思う	やや	あまり	思わない	目標70%	総数	そう思う	やや	あまり	思わない	目標70%
1	195	113	66	11	5	91.8%	98	50	42	4	2	93.9%	118	73	29	12	4	86.4%
2	195	94	79	20	2	88.7%	98	47	46	4	1	94.9%	120	74	38	4	4	93.3%
3	195	120	65	8	2	94.9%	98	52	40	5	1	93.9%	120	82	31	5	2	94.2%
4	195	125	65	5	0	97.4%	98	57	37	3	1	95.9%	120	82	26	6	6	90.0%
5	195	100	82	13	0	93.3%	98	48	41	5	4	90.8%	120	75	32	9	4	89.2%
6	195	83	89	21	2	88.2%	98	39	47	8	4	87.8%	119	70	35	9	5	88.2%
7	195	121	57	17	0	91.3%	98	52	35	6	5	88.8%	120	79	31	6	4	91.7%
8	195	68	90	33	4	81.0%	98	40	43	13	2	84.7%	120	71	37	8	4	90.0%
9	195	82	78	32	3	82.1%	98	45	44	7	2	90.8%	120	73	38	6	3	92.5%
10	195	98	81	15	1	91.8%	98	51	39	4	4	91.8%	119	76	31	7	5	89.9%

(a) 取組

評価基準については年度初めに口頭で行うだけではなく、より具体的にプリントにまとめる事や、各課題の内容ごとに関しても更に丁寧に行う必要性を感じた。。さらに生徒との指導者としての信頼関係を深めるためにも教材研究を十分に行って授業に臨みたい。

(b) 成果

音楽・美術・書道と表現方法が異なる点はあるが、ものを創る、表現するという観点の共通点を情報交換をしながら、また、交流等もはかりながら、進める事が出来た。その結果お互いの指導方法など学びあう場面もでき、芸術科として統一した考えをもつことができた。

(c) 課題

年間計画や評価基準については年度初めにきちんと行い、十分な説明をすることが教科会で確認されたが、教科によってのばらつきがあり、評価基準について十分に生徒に浸透していない点があったので、その点を改善したい。

(d) 改善策

評価基準については年度初めに口頭で行うだけではなく、より具体的にプリントにまとめる事や、各課題の内容ごとに関しても更に丁寧に行う必要性を感じた。

◎英語科 ★評価項目に関しては P.2 を参照してください。

英語	1年次						2年次						3年次					
	No	総数	そう思う	やや	あまり	思わない	目標70%	総数	そう思う	やや	あまり	思わない	目標70%	総数	そう思う	やや	あまり	思わない
1	388	88	179	104	17	68.8%	656	110	339	160	47	68.4%	641	131	286	155	69	65.1%
2	388	90	201	89	8	75.0%	656	73	363	189	31	66.5%	641	115	337	160	29	70.5%
3	388	130	197	52	9	84.3%	655	113	379	139	24	75.1%	639	141	299	156	43	68.9%
4	387	168	184	25	10	91.0%	656	193	378	65	20	87.0%	641	293	296	42	10	91.9%
5	388	121	208	42	17	84.8%	656	148	362	120	26	77.7%	641	220	319	82	20	84.1%
6	388	111	200	61	16	80.2%	656	156	353	115	32	77.6%	641	200	318	99	24	80.8%
7	388	150	183	30	25	85.8%	656	177	381	74	24	85.1%	641	283	291	51	16	89.5%
8	388	85	207	80	16	75.3%	656	110	385	145	16	75.5%	640	204	319	97	20	81.7%
9	388	88	204	79	17	75.3%	656	114	386	132	24	76.2%	641	196	327	97	21	81.6%
10	388	128	189	56	15	81.7%	656	150	371	106	29	79.4%	640	245	313	60	22	87.2%

(a) 取組

- ・授業内で生徒が常に活動できるようプリント等、工夫した。
- ・各年次担当で、進度の調整を行い、生徒の状況に合わせた授業内容の設定を詳細に行った。

(b) 成果

- ・3 - 1年次では8割強、2年次では7割強の生徒が積極的、主体的に授業に参加しているところをたえている。
- ・4, 7 - 教員の授業への取り組みの姿勢に関しては、各年次8割強の生徒が肯定的にとらえている。

(c) 課題

- ・1 - いずれの年次も予習復習などの学習準備をして意欲的に授業に参加させる必要がある。
- ・2 - 2年次においては授業内容の理解、習得ができたという自己評価が低い。

(d) 改善策

- ・特に復習に力を入れられるよう、課題を出すなど授業を工夫し、家庭学習を通して「繰り返し」の習慣を定着させる。
- ・内容定着が図れるように既習事項の重ねづけを取り入れた授業展開をする。

◎家庭科 ★評価項目に関しては P.2 を参照してください。

家庭	1年次						2年次						3年次					
	No	総数	そう思う	やや	あまり	思わない	目標70%	総数	そう思う	やや	あまり	思わない	目標70%	総数	そう思う	やや	あまり	思わない
1	196	74	83	29	10	80.1%	43	11	27	5	0	88.4%	57	35	20	0	2	96.5%
2	196	38	114	39	5	77.6%	43	14	28	1	0	97.7%	57	28	26	2	1	94.7%
3	196	84	91	18	3	89.3%	43	17	25	1	0	97.7%	57	30	21	5	1	89.5%
4	196	72	107	14	3	91.3%	43	19	24	0	0	100.0%	57	45	12	0	0	100.0%
5	196	60	108	24	4	85.7%	43	20	23	0	0	100.0%	57	44	13	0	0	100.0%
6	196	62	98	27	9	81.6%	43	15	25	3	0	93.0%	57	38	19	0	0	100.0%
7	196	79	98	16	3	90.3%	43	20	23	0	0	100.0%	57	43	14	0	0	100.0%
8	196	68	99	26	3	85.2%	43	14	28	1	0	97.7%	57	38	18	1	0	98.2%
9	196	53	101	40	2	78.6%	43	19	24	0	0	100.0%	57	43	14	0	0	100.0%
10	196	69	97	23	7	84.7%	43	20	23	0	0	100.0%	57	44	13	0	0	100.0%

(a) 取組

今年度も教科全体で評価基準・評価方法について詳細に説明をすることを実施した。特に、1年生の家庭基礎では多くある提出物の点数とテストの点数について学期末に明確に生徒に表示して評価方法について分かりやすく説明をした。

(b) 成果

出物の合計点数を提示して評価に関わることを明確にすることで、提出物に対する取り組みが改善され、未提出の生徒がほとんどいなくなった。

(c) 課題

学期末の忙しい時期に評価内容に関する配布物を生徒1人ずつ個人別に作成することは職員にとって大きな負担となった。評価に関する配布物の内容をより充実させ、より分かりやすくしたい。

(d) 改善策 評価に関する配布物にコメントを入れるなどしていきたい。

◎情報科

情報	1年次					目標70%
	No	総数	そう思う	やや	あまり	
1	192	14	49	81	48	32.8%
2	192	26	106	53	7	68.8%
3	192	35	101	50	6	70.8%
4	192	36	116	35	5	79.2%
5	192	38	105	44	5	74.5%
6	192	30	89	52	21	62.0%
7	192	48	103	34	7	78.6%
8	192	52	98	32	10	78.1%
9	191	27	94	59	11	63.4%
10	191	35	101	44	11	71.2%

(a) 取組

プレゼンテーションの題材として情報安全を扱うことで、教材そのものの学習を兼ねた授業展開が行え生徒の興味関心を高めた。また、付属中学校での発表を行わせることで情報発信の対象を明確にできた。年間を通してITを行うことで、スキルの差がある生徒の指導に有効だった。

(b) 成果

自主的・自発的に学習し成果を上げようと取り組む生徒が多くみられた。

(c) 課題

家庭環境の差があるためコンピュータリテラシーや携帯電話の指導を注意深く行わなければならない。コンピュータリテラシーの学習では、スキルの習得が必要になり、中学校での学習活動の差が如実に表れ、差を小さくするために多くの時間を必要とする。

(d) 改善策

家庭環境の差があるため、家庭学習は積極的に取り組ませなかった、今後アンケート項目の見直しを行う。年間の学習スケジュールは複数回連絡しているが、生徒にとって他教科と違う展開を行うため戸惑っている面がある。連絡の徹底を模索する。

◎教育

教育	2・3年総計					目標70%
	No	総数	そう思う	やや	あまり	
1	27	9	16	2	0	92.6%
2	27	9	17	1	0	96.3%
3	27	11	16	0	0	100.0%
4	27	15	11	1	0	96.3%
5	27	15	11	1	0	96.3%
6	27	15	12	0	0	100.0%
7	27	17	10	0	0	100.0%
8	27	14	12	1	0	96.3%
9	26	12	14	0	0	100.0%
10	27	17	9	1	0	96.3%

(a) 取組

「評価の観点の明確化」を明確に知らすことで、生徒もはっきり理解した。

コミュニケーション能力の育成を、一年間を通して心掛けた。なるべく、月の授業予定は1ヶ月前に知らせるように工夫した。

(b) 成果

評価の観点は、前期の評定から明確化して生徒に伝えられた。

生徒のコミュニケーション能力向上は、「異校種交流」「模擬授業」などを通じて、進歩がみられた。

(c) 課題

生徒の授業評価9より、明確なスケジュールの提示が必要と思われる。しかしながら、近隣の小中学校との交流もあり、年度当初に正確な予定を示すことには難しい面がある。

(d) 改善策

「教科目標」「年間予定」「評価の観点」等を、プリントで明示しながら、年度当初のオリエンテーションに臨む。

(4) 生徒による授業評価の全体考察と今後の課題および改善策

ア. 全体考察

ここ数年、項目1の評価が低い値が続いていたが、今年度も全体的にはその傾向が続いている。これは、部活動・生徒会活動・特別活動を中心とする生徒が多いことが原因と思われ、学習とのバランスを図れる取組、指導が各教科に求められている。これまで各教科で個別の対応を実施してきたが、なかなか効果が認められないのが現状であった。しかし、今回のアンケートで数学の一年次が昨年49.6%から73.2%になるなど顕著に上昇している教科があった。この取組を他教科も分析する必要がある。また、これまで、3年次になって進路・受験を意識して予習復習や家庭学習に励んで高まる傾向があったが、今年度は必ずしもそのような傾向は読み取れない。

項目8・9も数年来低い数値であったため、各教科で年度当初・学期末等折に触れて説明してきたが、その結果一昨年度より数値が上がった。

他の部分についても、数値が概ね70%で推移しているが、少しでも数値を上げることが大きな課題とも言える。

イ. 取組

5教科において、復習や家庭学習につなげるために定期的な単語テスト、ノートの提出等を行っている。これは昨年度から引き続いて実施している内容で特に目立った新しい取組をしたわけではない。

数値の減少が見られた他の教科でも、家庭学習ができるようにドリル形式の問題集の購入や、自習教材の提供など新しい取組をしたが、思うように数値が上がっていないのが現状である。

評価方法・評価基準、年間計画も各教科で説明をしている。年度当初だけではなかなか浸透しないので、年間計画は随時、評価関係は学期末・年度末等にも説明するようにした。また、各教科とも教科会で指導内容・進捗の確認を随時行って、共通理解の元に授業を行うように努めている。

ウ. 成果

小テストやノート提出により、理解の遅い生徒やわかりにくい内容部分の把握ができて、地道な取組みではあるが重要性がわかった。また、テストの実施により授業時の生徒自身の取組みもより集中したものになった。

評価関係は昨年より数値が上がった。

エ. 課題

例年と同じ形で教科が取組みをしていても、数値が落ち込む場合がある。今後、生徒の実態に即した取組みを考える必要がある。

また、取組みによって思ったように数値が上昇しないのは、家庭学習時間がうまく確保できないなど、自分の生活サイクルに起因する部分もある。

本校の学校目標でもある、学習・生徒会活動・部活動を総合し、さらに生徒の生活サイクルの指導等をどのようにしていくかが課題である。

また、1教科だけが飛び抜けた取組みを行うと、他教科にかける時間が減少してしまう点も考慮して全体的な計画を実施する必要があると思われる。

オ. 改善策

一方的に多くの教科で課題を与えるだけでは、内容の消化不良を起こしかねない。自宅学習時間として1～2時間程度が確保できるような取組みを考えるような指導が必要であると考えられる。そのためには、教科独自の取組みだけを優先させるのではなく、教科間の横のつながりを充実させることも重要であろう。また、生徒の学習への意欲や意識を高めることも重要である。それについても、教科ではなく、年次単位での取組が求められている。具体的には、キャリア教育の充実や始業前の自習授業、補習活動の実施などに取り組んでいく必要がある。

また、教師側も教材研究や板書・プリント類の工夫等、指導方法の研鑽を積む努力を重ねていく必要がある。

(2) 生徒による学校評価のデータ 1年から3年と全体

1年次

1年	質問	そう思う	やや	あまり	思わない	目標70%
学校全体	1	97	74	22	3	87.2%
	2	100	74	20	2	88.8%
	3	63	103	27	3	84.7%
	4	153	34	9	0	95.4%
学習や進路	5	61	110	21	4	87.2%
	6	14	44	73	65	29.6%
	7	55	112	27	2	85.2%
	8	54	121	18	3	89.3%

1年生在籍 197 データ提出 196
提出率 99.5%

1年	質問	そう思う	やや	あまり	思わない	目標70%
学校生活	9	97	84	14	1	92.3%
	10	88	99	7	2	95.4%
	11	45	113	35	2	81.0%
	12	46	97	46	7	73.0%
生徒会	13	34	102	54	5	69.7%
	14	57	96	39	4	78.1%
	15	153	37	5	1	96.9%
	16	94	80	19	3	88.8%
諸指導	17	56	78	50	12	68.4%
	18	55	102	35	4	80.1%
	19	52	101	37	6	78.1%
活部	20	127	62	4	3	96.4%

2年次

2年	質問	そう思う	やや	あまり	思わない	目標70%
学校全体	1	134	141	31	9	87.3%
	2	130	147	27	11	87.9%
	3	81	191	33	10	86.3%
	4	173	119	15	8	92.7%
学習や進路	5	43	196	58	18	75.9%
	6	19	119	99	78	43.8%
	7	89	168	43	15	81.6%
	8	35	178	84	18	67.6%

2年生在籍 319 データ提出 315
提出率 98.7%

2年	質問	そう思う	やや	あまり	思わない	目標70%
学校生活	9	129	161	20	5	92.1%
	10	101	186	21	7	91.1%
	11	63	190	57	5	80.3%
	12	75	179	57	4	80.6%
生徒会	13	39	172	90	14	67.0%
	14	47	198	60	9	78.0%
	15	191	110	10	3	95.9%
	16	101	179	22	13	88.9%
諸指導	17	88	154	54	18	77.1%
	18	56	163	68	26	70.0%
	19	57	169	71	18	71.7%
活部	20	127	142	31	15	85.4%

3年次

3年	質問	そう思う	やや	あまり	思わない	目標70%
学校全体	1	211	79	15	6	93.2%
	2	201	79	21	10	90.0%
	3	126	152	28	5	89.4%
	4	213	81	13	4	94.5%
学習や進路	5	89	151	50	21	77.2%
	6	92	114	76	29	66.2%
	7	112	138	42	19	80.4%
	8	108	156	34	13	84.9%

3年生在籍 320 データ提出 311
提出率 97.2%

3年	質問	そう思う	やや	あまり	思わない	目標70%
学校生活	9	193	95	16	7	92.6%
	10	152	134	19	6	92.0%
	11	114	149	34	13	84.8%
	12	121	136	45	8	82.9%
生徒会	13	88	137	77	9	72.3%
	14	99	146	57	9	78.8%
	15	241	63	4	3	97.7%
	16	168	107	29	6	88.7%
諸指導	17	133	116	50	11	80.3%
	18	125	130	39	16	82.3%
	19	111	132	57	10	78.4%
活部	20	195	91	17	7	92.3%

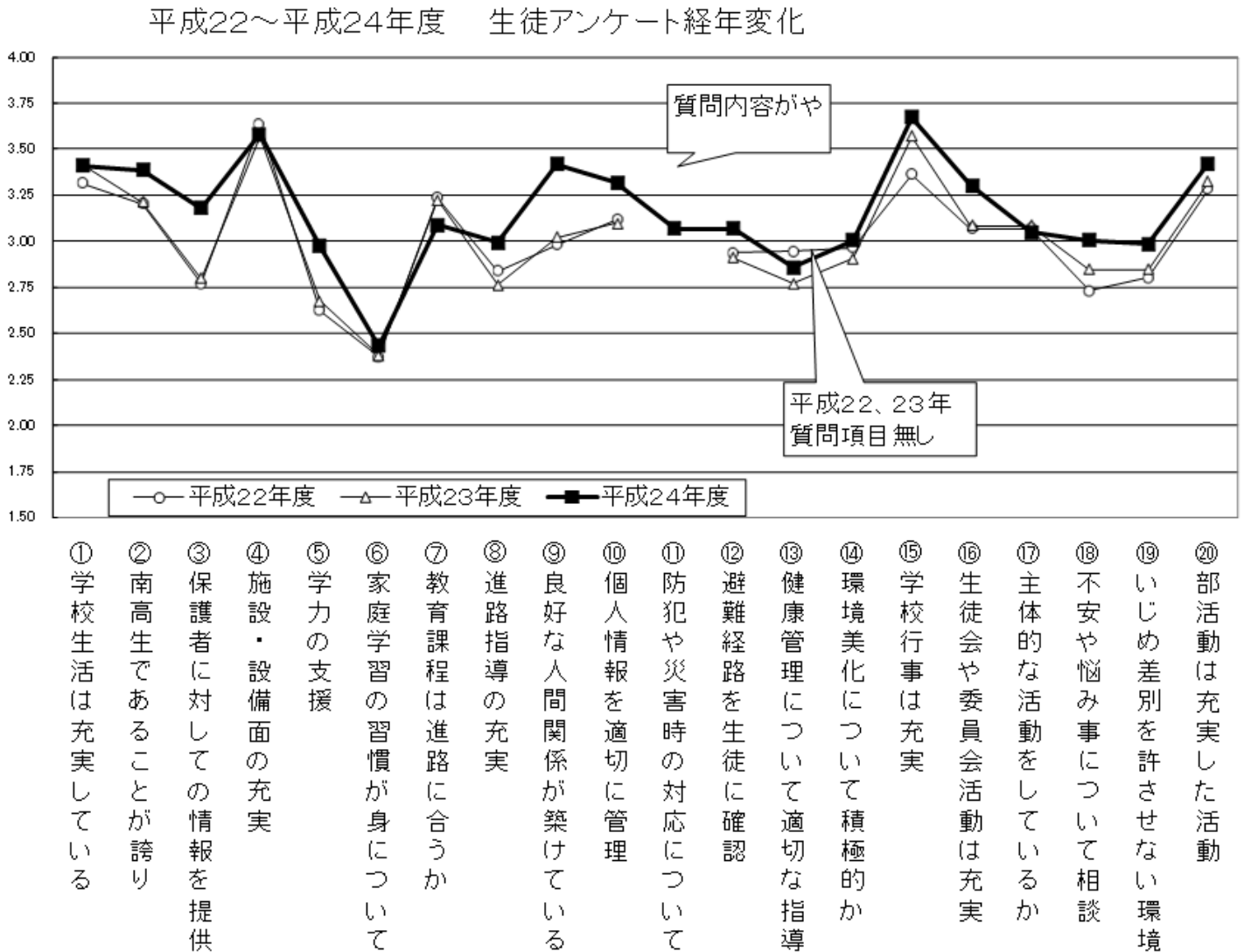
全体

全体	質問	そう思う	やや	あまり	思わない	目標70%
学校全体	1	442	294	68	18	89.5%
	2	431	300	68	23	88.9%
	3	270	446	88	18	87.1%
	4	539	234	37	12	94.0%
学習や進路	5	193	457	129	43	79.1%
	6	125	277	248	172	48.9%
	7	256	418	112	36	82.0%
	8	197	455	136	34	79.3%

在籍 836 データ提出 822
提出率 98.3%

全体	質問	そう思う	やや	あまり	思わない	目標70%
学校生活	9	419	340	50	13	92.3%
	10	341	419	47	15	92.5%
	11	222	452	126	20	82.2%
	12	242	412	148	19	79.7%
生徒会	13	161	411	221	28	69.7%
	14	203	440	156	22	78.3%
	15	585	210	19	7	96.8%
	16	363	366	70	22	88.8%
諸指導	17	277	348	154	41	76.2%
	18	236	395	142	46	77.0%
	19	220	402	165	34	75.8%
活部	20	449	295	52	25	90.6%

(3) 生徒による学校評価のデータ 経年変化



(4) 生徒による学校評価の考察と今後の課題・改善策

解答で、そう思うとややそう思うを足した数値が70%を超える項目については、概ね満たされているとした。

ア. 学校全体について

- 01, 02-各学年ともおおむね90%近くを示しを超過した数値であり、生徒の学校活動での充実感が高いと考えられる。(学校経営会議)
- 03-昨年より「そう思う」「ややそう思う」の値が高くなっているが、本年度メール配信システムを導入したためと思われる。また、昨年度の保護者アンケートなどから、家庭に配付物が届いていないことがあり、担任からの指導が繰り返し行われた結果でないかと予想できる。今後も学園広場や学校ホームページ、メール配信システムを活用し保護者への情報提供に努めていきたい。(学校経営会議)
- 03-全体の数値が上昇傾向にある。入学前の学校説明会などで、説明を充実させたためと考えられる。しかし、若い学年ほど数値が高い傾向があり、それぞれの年次での保護者説明会などでも触れ保護者の意識を高める必要がある。(教務)
- 04-今年度は各教室のロッカーの扉を全部新しくした。老朽化で修繕するところが多くなってきている。(南高ホール、体育館ステージ緞帳等) 順次必要性の高いものから行っていきたい。(総務)

イ. 学習や進路について

06-具体的な数字では48.9%（一年次29.6、二年次43.8、三年次66.2）と低い数字になっている。定期試験前などは学習時間が伸びるが、平常は今ひとつ定着していないようである。今年度の大きな取り組みとして、特に、一年次では家庭学習記録「ThisWeek」を導入し学習習慣の定着化を図る、三年次では模擬試験の形態・回数を変更し生徒の学習への意識付けの改善を図った。しかし（特に一・二年次）意欲を持っている生徒が多いと感じるが、部活動や行事の兼ね合いで両立できない。（特に三年次）基礎力が不足し、学習に焦りを生じている者、受験勉強と授業を切りはなしてしまう者など悩みを抱えている生徒がおり、なかなか成果をあげていない。基礎力をつけることが、（受験）勉強の第一歩。家庭学習の必要性を具体的に指導を続けていくことが必要である。低学年での「ThisWeek」の継続利用、高学年での模試受験後の振り返りの徹底など図っていくことが大切と考える。（進路）

06-家庭学習の習慣が身につくよう各教科、年次で指導してきたがなかなか改善されない。さらに学校全体での時間捻出を考えるべきではないか。（学校経営会議）

08-具体的な数字では79.3%（一年次89.3、二年次67.6、三年次84.9）と比較的高い数字になっている。例年よりも高い数字になっており、生徒の意識付けには効果的な指導ができた。年間を通じて、説明会やガイダンスの企画を充実させた。特に一年次では「インプロワークショップ」を取り入れ、生徒を主体的に考えさせることに力をいれた。また、「逆算人生」の考え方を取り入れ二・三年次へ向けての意識を高めた。三年次では、分野別説明会の回数・時期の見直し、各種説明会を企画し、より効果的な進路指導に取り組んだ。年次主体の企画が多かったため、企画の負担も大きかった。三年間を見据え、より効果的な時期に行うことも大切であり、三年間を見据えた継続指導を分掌全体でまたは学校全体で取り組んでいく必要がる。また、複数の年次にまたがる企画や集団のサイズや時期の検討をし効果的な指導が実現できるよう改善して行きたい。（進路）

ウ. 学校生活について

09-70%の目標値に達している。担任を中心として、教員同士が共通意識を持ち、統一して指導を行ってきたが、学校生活の基本となる事柄であるため、より満足度をあげる必要がある。今後も担任を中心として、教員同士の共通理解を深め、より細かな指導を行う取組を行いたい。（生活）

10-90%以上の高い値を示している。学期のはじめに個人情報に関するプリントで周知している。今後も続けていきたい。（図書・情報）

11, 12- 防災・防犯の対応について、そう思う、ややそう思うの項目の和が82.2%あり、年度当初配布の「緊急事態における南高校の対応」プリントでおおむね周知されていると考えられる。防犯についてもメール配信システムが導入されきめ素早い対応が評価されていると考えられる。（防災委員会）

13-生徒、保護者においては目標値にわずかに達していない。「保健室便り」等により生徒自身が健康管理できるように指導している。「保健室便り」をHR等で活用し、内容を生徒に徹底させていきたい。（生活）

13, 14- 保健指導については、主に身体計測時に全体指導した。環境美化については委員会が中心となり、ゴミの分別と軽減に取り組んでいる。また、保健指導については1年次に薬物乱用防止の講演会などを行ってきた。環境美化に関しては委員会では不十分な点があったが担任の指導でゴミ分別の指導が行われた。十分に浸透できていない点について職員の研修会あるいは総合の時間等に位置付けて継続的に指導していく必要性を感じた。（生活）

15-学校行事については「そう思う」と「ややそう思う」の合計が、各年次95%を超える高い数値がでている。生徒の自主性を尊重しつつ進路選択や大学受験などの学習が後期に集中できる

ように、年間行事計画の中では前期に行事を集中するように配慮してきたためと思われる。今後附属中学開設に伴い中高6年間の生徒会活動を念頭に行事全体のグラウンドデザインを思案する中で、内容や日程等を検討していくことが課題である。(生徒会)

16-生徒会活動一般に関しても90%近く、生徒会活動そのものについては成果が上がっている。

中高一貫校に移行するなかで、現在の成果を生かした行事・生徒会活動をどう構築していくかが課題であり今後附属中学との連携を深めて、検討していく必要がある。(生徒会)

17-「そう思う」と「ややそう思う」の合計が、1年次は68.4%だが、2年次77%、3年次80.3%とじだいに上がっている。各種の行事は、生徒会指導部職員の指導のもと、担当生徒たちが主体的に企画し運営している。生徒会活動一般についても上級生から下級生への連絡を密にして、生徒の組織する各種の委員会を中心に展開している。これは上級生が下級生を指導するやりかたが機能していることのあらわれと考えている。中高一貫校に移行するなかで、現在の成果を生かした行事・生徒会活動をどう構築していくかが課題である。(生徒会)

18, 19-担任面談の充実や保健室におけるカウンセリング活動などに取り組んできた。今後もこれらの活動を充実させていきたい。また、いじめについてのアンケートの実施、活用など年次組織や学校全体での組織的な取組を行っていきたい。(学校経営会議)

4. 保護者による学校評価

(1)保護者による学校評価アンケートの項目

項目	内 容	番号	評 価 指 標
学 校 全 体 に つ い て	学校経営	1	生徒は充実した学校生活を送っていると思いますか
		2	生徒を南高校に入学させて良かったと思いますか。
		3	南高校は学校教育目標や学校の方針についてきちんと説明していると思いますか。
		4	南高校は学校の様子を家庭への配付資料や学校ホームページなどを通じて十分かつ適切に伝えていると思いますか。
		5	南高校の教育環境(施設・設備)は充実していると思いますか。
		6	南高校は各種会計報告が適切に行われていると思いますか。
	P T A	7	南高校での P T A 活動は活発だと思いますか。
教 育 活 動 に つ い て	防 災	8	南高校は防犯や災害時の対応について具体的な対策が行われていると思いますか。
	人 権	9	南高校では人権に配慮した教育が行われていると思いますか。
	図書情報	10	南高校は生徒の個人情報を中心にきちんと保護していると思いますか。
	環 境	11	南高校は環境美化に力を入れ、校内の教育環境がきちんと管理されていると思いますか。
	生 活	12	南高校では生活習慣や規範意識を身につけるための適切な指導が行われていると思いますか。
	保 健	13	南高校では生徒の健康管理に関する適切な指導が行われていると思いますか。
	進 路	14	南高校は、生徒の進路実現に向けて、適切な学習指導や学力向上への取組が行われていると思いますか。
		15	南高校では希望進路に応じた情報の提供があり、適切な進路指導が行われていると思いますか。
		16	南高校の教育課程は、生徒の進路実現に向けて適切なものとなっていると思いますか。
	年 次	17	生徒はホームルーム(学級)で良好な人間関係を築き、充実した生活を送っていると思いますか。
	生徒会	18	南高校の学校行事や生徒会活動は充実し、生徒は積極的に参加していると思いますか。
	部 活	19	南高校の部活動は充実していると思いますか。
	学校運営	20	南高校は生き方について考えさせたり、豊かな心を育てようとしていると思いますか。

◎ 評価の選択肢 ①-そう思う ②-ややそう思う ③-あまりそう思わない、
④-そう思わない ⑤-わからない

(2) 保護者による学校評価のデータ 1年から3年と全体

1年生

1年	質問	そう思う	やや	あまり	思わない	分らない	目標70%
学校経営	1	127	36	6	0	2	95.3%
	2	129	34	5	1	2	95.3%
	3	85	74	6	1	5	93.0%
	4	69	72	18	4	8	82.5%
	5	146	22	1	2	0	98.2%
	6	106	44	2	2	17	87.7%
PTA	7	86	56	5	2	22	83.0%

1年生在籍 197 データ提出 171
提出率 86.8%

1年	質問	そう思う	やや	あまり	思わない	分らない	目標70%	
学校経営	防災	8	56	67	13	2	33	71.9%
	人権	9	56	62	7	3	43	69.0%
	目標設定	10	75	50	4	1	41	73.1%
	環境	11	61	82	10	2	16	83.6%
	生活	12	42	85	21	2	21	74.3%
	保健	13	43	76	16	1	35	69.6%
	進路	14	72	82	7	1	9	90.1%
		15	60	78	13	1	19	80.7%
		16	56	79	10	2	24	78.9%
	年次	17	100	56	5	2	8	91.2%
	生徒会	18	114	44	2	1	10	92.4%
	卸店	19	125	34	7	1	4	93.0%
	学校運営	20	70	62	8	4	27	77.2%

2年生

2年	質問	そう思う	やや	あまり	思わない	分らない	目標70%
学校経営	1	173	77	8	2	2	95.4%
	2	179	70	5	0	7	95.4%
	3	94	137	17	1	12	88.5%
	4	70	146	31	3	12	82.4%
	5	199	55	5	0	3	96.9%
	6	137	101	4	0	19	91.2%
PTA	7	101	130	13	0	18	88.2%

2年生在籍 319 データ提出 262
提出率 82.1%

2年	質問	そう思う	やや	あまり	思わない	分らない	目標70%	
学校経営	防災	8	85	131	16	1	29	82.4%
	人権	9	69	97	17	1	78	63.4%
	目標設定	10	95	102	8	1	56	75.2%
	環境	11	91	129	26	2	12	84.6%
	生活	12	57	123	46	5	32	68.7%
	保健	13	47	125	25	2	63	65.6%
	進路	14	63	140	35	14	10	77.5%
		15	49	138	46	11	18	71.6%
		16	57	126	39	10	30	69.8%
	年次	17	138	95	11	5	13	88.9%
	生徒会	18	172	68	9	4	8	92.0%
	卸店	19	161	67	17	4	13	87.0%
	学校運営	20	65	114	25	5	53	68.3%

3年生

3年	質問	そう思う	やや	あまり	思わない	分らない	目標70%
学校経営	1	233	45	4	1	3	97.2%
	2	239	35	5	0	7	95.8%
	3	107	141	22	1	15	86.7%
	4	108	135	29	1	13	85.0%
	5	237	42	3	1	2	97.9%
	6	185	79	2	1	19	92.3%
PTA	7	169	92	8	0	17	91.3%

3年生在籍 320 データ提出 286
提出率 89.4%

3年	質問	そう思う	やや	あまり	思わない	分らない	目標70%	
学校経営	防災	8	99	124	19	2	41	78.2%
	人権	9	102	92	10	2	80	67.8%
	目標設定	10	116	99	3	1	66	75.4%
	環境	11	120	118	25	2	21	83.2%
	生活	12	85	134	30	3	34	76.6%
	保健	13	81	125	26	2	52	72.0%
	進路	14	91	129	42	12	12	76.9%
		15	98	125	40	6	17	78.0%
		16	91	112	45	11	27	71.0%
	年次	17	200	68	8	1	7	94.4%
	生徒会	18	213	62	3	1	7	96.2%
	卸店	19	199	65	7	5	10	92.3%
	学校運営	20	109	105	20	3	49	74.8%

全体

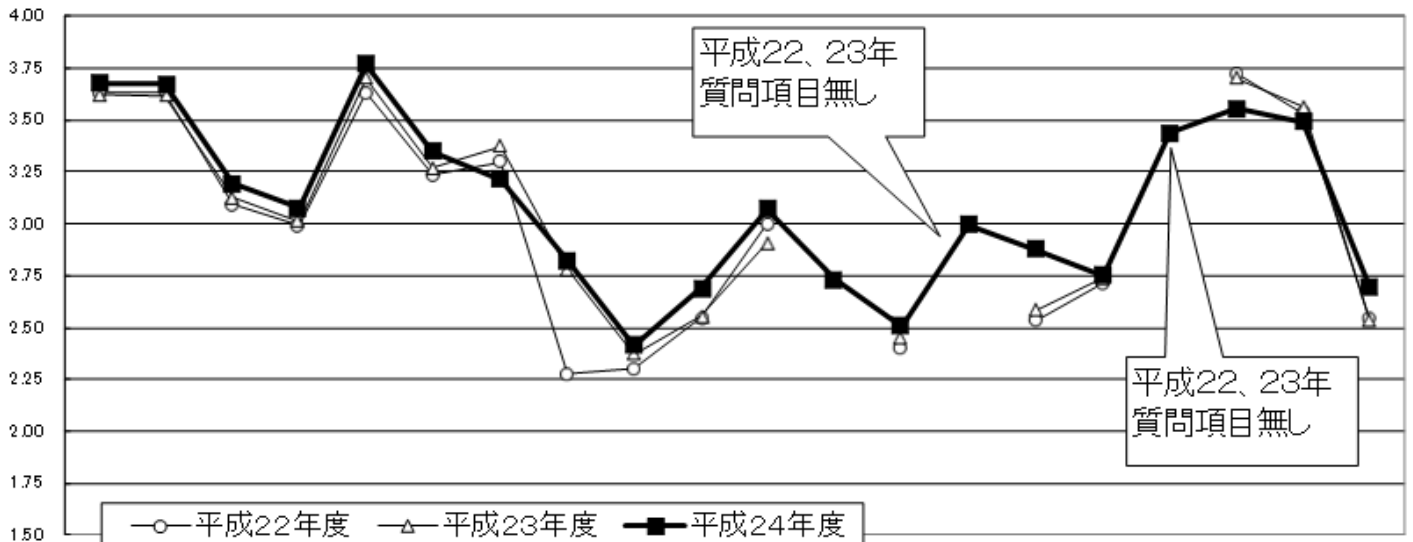
	質問	そう思う	やや	あまり	思わない	分らない	目標70%
学校経営	1	533	158	18	3	7	96.1%
	2	547	139	15	1	16	95.5%
	3	286	352	45	3	32	88.9%
	4	247	353	78	8	33	83.4%
	5	582	119	9	3	5	97.6%
	6	428	224	8	3	55	90.8%
PTA	7	356	278	26	2	57	88.2%

提出率 86.0%

3年	質問	そう思う	やや	あまり	思わない	分らない	目標70%	
学校経営	防災	8	240	322	48	5	103	78.3%
	人権	9	227	251	34	6	201	66.5%
	目標設定	10	286	251	15	3	163	74.8%
	環境	11	272	329	61	6	49	83.8%
	生活	12	184	342	96	10	87	73.2%
	保健	13	171	326	67	5	150	69.1%
	進路	14	226	351	84	27	31	80.3%
		15	207	341	98	18	54	76.3%
		16	204	317	94	23	81	72.5%
	年次	17	438	219	24	8	28	91.6%
	生徒会	18	499	174	14	6	25	93.7%
	卸店	19	485	166	31	10	27	90.5%
	学校運営	20	244	281	53	12	129	73.0%

(3) 保護者による学校評価のデータ 経年変化

平成22～平成24年度 保護者アンケート経年変化



- ① 充実した学校生活
- ② 入学させてよかった
- ③ 目標や方針をきちんと説明
- ④ 様子を適切に伝えている
- ⑤ 施設・設備の充実
- ⑥ 各種会計報告が適切
- ⑦ PTA活動は活発だ
- ⑧ 防犯や災害時は適切な対策
- ⑨ 人権に配慮した教育
- ⑩ 個人情報をきちんと保護
- ⑪ 環境美化がきちんと管理
- ⑫ 生活習慣や規範意識の指導
- ⑬ 健康管理に関する適切な指導
- ⑭ 学習指導、学力向上への取組
- ⑮ 希望進路に応じた進路指導
- ⑯ 教育課程の適性
- ⑰ 良好な人間関係を築いている
- ⑱ 学校行事や生徒会活動は充実
- ⑲ 本校部活動は充実
- ⑳ 豊かな心を育てようとして

(4) 保護者による学校評価の考察と今後の課題と改善策

そう思う、ややそう思うの項目の和が70%を超える評価については概ね満たしていると考えますが、それで満足せず、さらに取り組みを続けたい。

ア. 学校全体について

01-そう思う、ややそう思うの項目の和が96.1%あり、多くの保護者が、生徒が充実した学校生活を送れていると満足していると思われる。(学校経営委員会)

04-そう思う、ややそう思うの項目の和が83.4%あり、メール配信システムの導入してきたが、今後も家庭との連携を深めるためにもホームページの活用など工夫していきたい。

(学校経営会議)

05-そう思う、ややそう思うの項目の和が97.6%あり施設の充実について満足度が高い。校舎建設後20年以上が経過し、老朽化による施設設備の改修等の必要性が増大すると思われるのでその対策を考えていきたい。(学校経営委員会)

05-学校の施設が充実し、毎年数値が高い。しかし、老朽化が進みつつあり、修理が必要な部分も多くある。修理費に充てる予算をある程度確保することも必要だが、公費節減の状況にもあり、なかなか改善策が見いだせない。(教務)

07-活動のお誘いをプリント配布で行っているが、保護者にプリントが届かないことが多いようだ。メール配信でお知らせを流した結果、例年より多くの人に参加したので、広報を工夫していきたい。(総務)

08-防災の対応について、そう思う、ややそう思うの項目の和が78.2%あり、年度当初配布の「緊急事態における南高校の対応」プリントでおおむね周知されていると考えられる。しかし、

3/11東日本大震災もあり、具体的な対策について不安な保護者も多いと思われるので、検討を続けていきたい。今年度は、防災費（P費）を60万円（前年度40万円）に増額してもらい、毛布100枚・サバイバルシート950枚・トランシーバー等を購入した。また、その取り組みを学校だよりである「学園広場」で、本校の防災体制について広報してきたが、今後もそのような対応を続けたい。（防災委員会）

イ. 教育活動について

- 11, 13-保健指導については、主に身体計測時に全体指導した。環境美化については委員会が中心となり、ゴミの分別と軽減に取り組んでいる。また、保健指導については1年次に薬物乱用防止の講演会などを行ってきた。環境美化に関しては委員会では不十分な点があったが担任の指導でゴミ分別の指導が行われた。十分に浸透できていない点について職員の研修会あるいは総合の時間等に位置付けて継続的に指導していく必要性を感じた。（生活）
- 12, 17-70%の目標値に達している。担任を中心として、教員同士が共通意識を持ち、統一して指導を行ってきたが、学校生活の基本となる事柄であるため、より満足度をあげる必要がある。今後も担任を中心として、教員同士の共通理解を深め、より細かな指導を行う取組を行いたい。（生活）
- 13-「健康管理に関して適切な指導か」という問いに、「そう思う」と「ややそう思う」の合計が69.1%となっている。ケガ人や病気の生徒には、丁寧な対応を心掛けているが、今後も続けていきたい。また、「わからない」という回答が150人おり、現在、「保健だより」等で全校への広報に努めているところだが、「保健室の対応」や「風邪の予防」など「学園だより」やホームページを使った方法も検討していきたい。また、「保健室便り」をHR等で活用し、内容を生徒に徹底させていきたい。（生活）
- 14, 15-今年度の新たな取り組みとして、夏期講習の優先期間の導入、冬期講習の導入、サテライト授業の導入、河合塾の模試活用、PCを利用した面談指導（三年次）など行った。夏期講習受講人数や講座数の増加、少人数ではあるが冬期講習やサテライトへの受講者あり。河合塾のKei-Naviをインターネット使える環境もでき、面談の充実など効果が現れたようである。今後の課題として、講座の充実や内容の精選、部活動との兼ね合いなどを考慮し計画していかなければならない。古いPC（デスクトップのPCでは可搬性が悪く、起動にも時間がかかる）を利用し試験的に導入したが、次年度に向けて環境の整備が必要である。さらに、一・二年次のベネッセのデータ、三年次の河合塾のデータと継続性を考えなければならない。各HR（特に三年次）で使えるノート型PCとプリンターの予算要求をし、環境を整えていきたい。また、一・二年次からも河合塾の模試を利用するなどして、データの継続性を大事にしていくよう改善していく。（進路）
- 16-「そう思う」と「ややそう思う」の合計が72.5%である。今年度26年度入学生の教育課程および平成27年度からの中高一貫の教育課程を作成した。今後も生徒の実態に即した教育課程の編成を目指したい。（教育課程推進委員会）
- 18-各年次とも「そう思う」と「ややそう思う」の合計が、90%を超えており、保護者にも生徒会活動の成果についてよく理解されていると考えている。生徒会としても生徒の自主性を尊重しつつ進路選択や大学受験などの学習が後期に集中できるように、年間行事計画の中では前期に行事を集中するように配慮している。また、各種の行事は、生徒会指導部職員の指導のもと、担当生徒たちが主体的に企画し運営している。生徒会活動一般についても上級生から下級生への連絡を密にして、生徒の組織する各種の委員会を中心に展開している。さらに、附属中学開設に伴い中高6年間の生徒会活動を念頭に行事全体のグラウンドデザインを思案する中で、内容や日程等を検討を今後も続けたい。（生徒会）
- 08, 09, 10, 13, 20-については、「わからない」の回答が100人を超えている。08「防災」、09「人権」、10「個人情報」、13「健康管理」、20「豊かな心の育成」について保護者への教育内容の伝達、情報提供を工夫する必要があると考えられる。「学園だより」「ホームページ」などの活用しその広報について改善していく。

5. 教職員による学校評価

(1) 教職員による学校評価アンケートの項目

1	教育振興		教育振興プログラムに係る使命の達成に向けて学校全体として取り組んでいる。
2	教育課程	編成	学校教育目標・学校経営目標を踏まえて編成されている。
3		取組	学習指導要領の趣旨及び横浜市の方針に基づき、さらに中期学校経営方針に掲げた目標の実現を目指して編成し、取り組んでいる。
4	教科指導	指導計画	学校教育目標・重点目標の実現に向け適切な計画を作成している。
5		取組	私の所属している教科は生徒の実態に応じて、指導内容や指導方法を工夫してわかりやすい授業を行っている。
6		評価 評定	私の所属している教科は、観点別評価規準を明確にした年間計画を立て、それに基づき適切な方法で評価・評定を行っている。
7	特別活動	取組	生徒の主体的、自立的な生徒会活動の活性化に向けて適切に指導している。
8	ホームルーム		人間関係を円滑に結び、充実した学校生活を送る基礎的な生活集団の形成に資するホームルーム経営を行うことができている。
9	生徒指導		生徒の生活習慣の確立や規範意識の形成に向けて、適切な指導を行うことができている。
10	進路指導		生徒の希望する進路の実現に向けて、学校全体として適切に取り組んでいる。
11	保健指導		学校保健計画に沿って生徒の健康管理を適切に行い、また生徒の健康に対する意識を喚起している。
12	環境美化		資源リサイクル等省エネ行動に学校として適切に取り組んでいる。
13	学校教育目標		学校教育目標の実現に向け、全教職員が取り組んでいる。
14	学校経営方針		学校経営方針に基づき、教職員が協力して円滑な学校経営がなされている。
15	職員組織 (校務分掌も含む)		一人ひとりの教職員が意欲をもって業務に取り組むことができる組織となっている。
16	年次経営		各年次の運営は、情報が共有され組織的取組が円滑に行なわれている。
17	職員会議等		会議は効率的に運営されており、教育活動や学校運営の計画等の共通理解が図られる場となっている。
18	研究・研修		教職員が互いに研鑽し、力量を高めることができるように、校内の研究・研修体制が整えられている。
19	学校 経理	予算編成	予算委員会などの組織を設けて、予算が適切に立てられている。
20		会計報告	公金、準公金ともに透明性が確保され、保護者や市民に対する説明責任を十分に果たしている。
21	学校施設設備		教室、特別教室、体育施設等は学習や生活がしやすいように管理が適切になされている。
22	情報管理		個人情報等の管理及び活用が適切である。
23	保護者	PTA	P T A 活動が十分保護者に理解され円滑に運営されている。
24	地域との 連携	地域等との 連携協力	学校の教育活動の情報提供・説明が十分になされ、活動に対する理解が得られている。
25	危機 管理	安全対策	学校安全計画に沿って適正に実施されている。
26		防災 対策	学校防災計画に沿って、緊急避難場所や避難経路・避難方法等の周知徹底がなされている。
27	情報公開		募集に関する学校説明会や学校情報に関する広報活動に積極的に取り組んでいる。

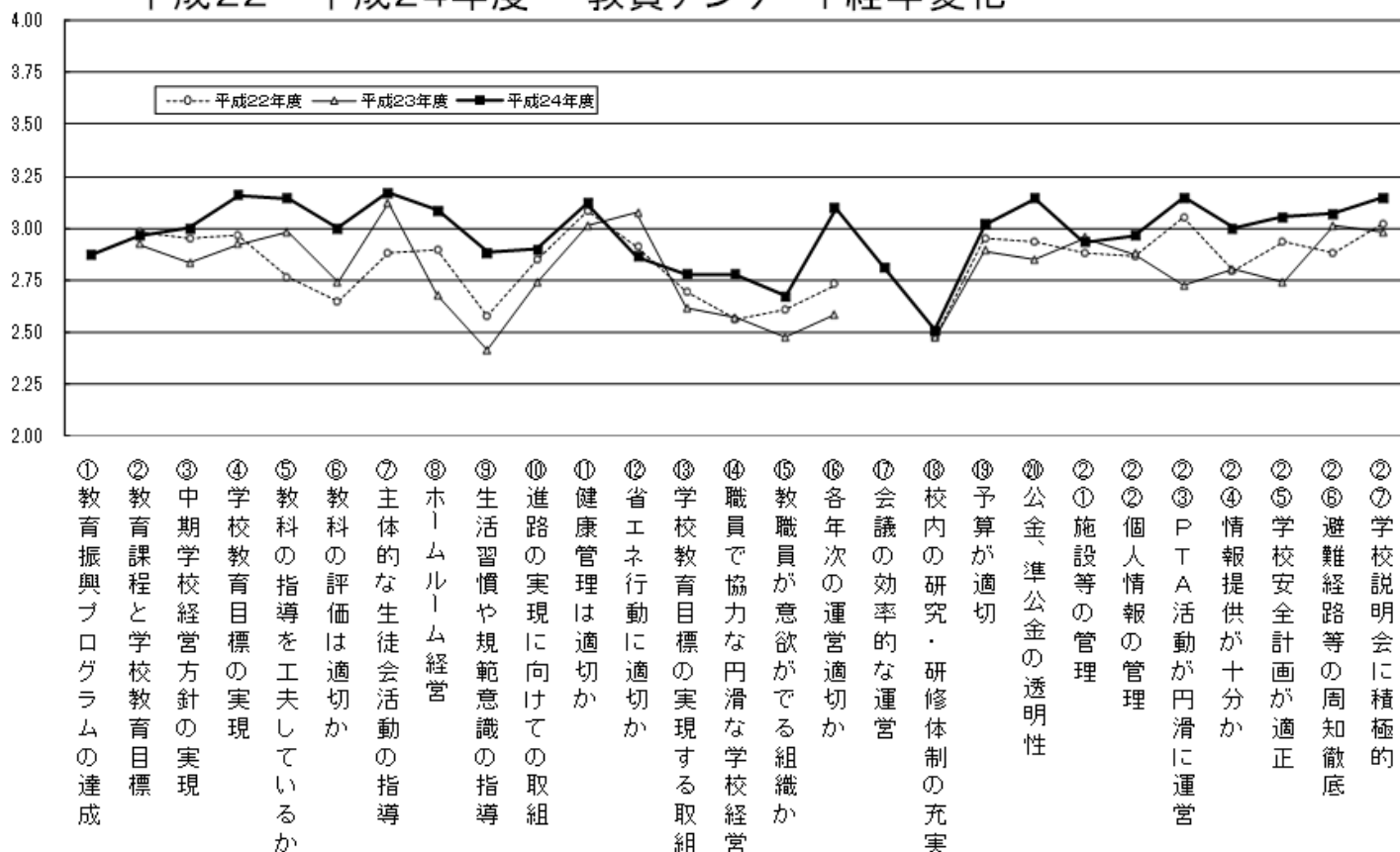
- ◎ 評価の選択肢 ①-十分実現できている、 ②-おおむね実現できている
③-あまり実現できていない ④-全く実現できない ⑤判断できない

(2) 教職員による学校評価のデータ

項目	十分に	おおむね	あまり	全く	判断出来ない	無回答	合計		70%目標
1	5	32	9	1	12	2	61		62.7%
2	6	46	6	1	2	0	61		85.2%
3	8	39	6	1	7	0	61		77.0%
4	14	38	5	0	4	0	61		85.2%
5	13	39	5	0	4	0	61		85.2%
6	13	34	7	3	3	1	61		78.3%
7	21	29	7	2	2	0	61		82.0%
8	8	36	4	0	12	1	61		73.3%
9	5	42	12	0	2	0	61		77.0%
10	7	39	11	1	3	0	61		75.4%
11	14	38	5	1	3	0	61		85.2%
12	10	33	14	2	2	0	61		70.5%
13	2	42	13	1	3	0	61		72.1%
14	2	42	13	1	3	0	61		72.1%
15	2	37	17	2	3	0	61		63.9%
16	11	35	4	1	9	1	61		76.7%
17	7	33	16	1	4	0	61		65.6%
18	3	24	23	3	7	1	61		45.0%
19	12	34	7	2	6	0	61		75.4%
20	15	36	1	3	6	0	61		83.6%
21	5	45	7	1	3	0	61		82.0%
22	9	37	7	2	5	1	61		76.7%
23	14	36	2	2	7	0	61		82.0%
24	6	41	6	0	8	0	61		77.0%
25	8	43	5	0	5	0	61		83.6%
26	13	37	7	1	3	0	61		82.0%
27	17	37	6	1	0	0	61		88.5%

(3) 教職員による学校評価のデーター 経年変化

平成22～平成24年度 教員アンケート経年変化



(2) 職員による学校評価結果の考察 今後の課題・改善策

- 01-内容の周知が進み、成果が待たれる。各自で教育振興プログラムを読み、内容を学校活動に生かす。取組が次に生かされるよう教育振興プログラムを意識しつつ、各セッションなどの目標に取り入れる。(教務)
- 03, 04-教育目標の具現化に向けての項目について、「十分実現できている・おおむね実現できている」の和がいずれも昨年に比べてやや増加している。しかし、さらに学校教育目標や経営目標の全職員で共有化に取り組んでいく必要がある。(学校経営会議)
- 07-部活動と一緒に評価されているので、生徒会活動に対する評価は正確には不明。ただ80%を超えているので、成果が上がっていると評価されているとは考えている。・生徒の自主性を尊重しつつ進路選択や大学受験などの学習が後期に集中できるように、年間行事計画の中では前期に行事を集中するように配慮している。各種の行事は、生徒会指導部職員の指導のもと、担当生徒たちが主体的に企画し運営している。生徒会活動一般についても上級生から下級生への連絡を密にして、生徒の組織する各種の委員会を中心に展開している。附属中学開設に伴い中高6年間の生徒会活動を念頭に行事全体のグラウンドデザインを思案する中で、内容や日程等を検討している。中高一貫校に移行するなかで、現在の成果をどう生かしていくかが課題。
- 09-規範意識の形成についてさらに全職員で協同して指導できるような取組みを行っていききたい。(学校経営会議)
- 10-例年よりもやや高い数字になっており、生徒の意識付けには効果的な指導ができた。年間を通じて、説明会やガイダンスの企画を充実させた。特に一年次では「インプロワークショップ」を取り入れ、生徒を主体的に考えさせることに力をいれた。また、「逆算人生」の考え方を取り入れ二・三年次へ向けての意識を高めた。三年次では、分野別説明会の回数・時期の見直し、各種説明会を企画し、より効果的な進路指導に取り組んだ。年次主体の企画が多かったため、企画の負担も大きかった。三年間を見据え、より効果的な時期に行うことも大切であり、三年間を見据えた継続指導を分掌全体でまたは学校全体で取り組んでいく必要がる。また、複数の

年次にまたがる企画や集団のサイズや時期の検討をし効果的な指導が実現できるよう改善して行きたい。(進路)

- 11-生徒、保護者においては目標値にわずかに達していない。「保健室便り」等により生徒自身が健康管理できるように指導している。「保健室便り」をHR等で活用し、内容を生徒に徹底させていきたい。(生活)
- 11, 12-保健指導については、主に身体計測時に全体指導した。環境美化については委員会が中心となり、ゴミの分別と軽減に取り組んでいる。また、保健指導については1年次に薬物乱用防止の講演会などを行ってきた。環境美化に関しては委員会では不十分な点があったが担任の指導でゴミ分別の指導が行われた。十分に浸透できていない点について職員の研修会あるいは総合の時間等に位置付けて継続的に指導していく必要性を感じた。(生活)
- 15-平成27年度以降の教育課程が決まりつつあり、これまで、新教育課程や、中高一貫校に向けての学校づくりを本校の職員が中心になって進めてきたが、1クラス募集に関しては、学校と市教委の役割分担を明確にしていく必要がある。(教務)
- 18-セクションや係などで関係する部分の全体研修を行ったが、7時間授業の導入などで実施可能時間が減少しており、今後は、実施時間、内容の吟味が必要である。(教務)
- 19-4月か5月にかけて消耗品・備品等は総務が呼びかけ透明性を持たせて予算立てをしている。事務やPTAの予算や会計報告が、学校ホームページや、PTA総会の資料でばらばらに情報公開しているのでわかりにくい。
- 21-学校の施設が充実し、毎年数値が高い。しかし、老朽化が進みつつあり、修理が必要な部分も多くある。修理費に充てる予算をある程度確保することも必要だが、公費節減の状況にもあり、なかなか改善策が見いだせない。(教務)
- 24-情報提供については、「学園広場」の活用や配付物の適切な扱い方の指導など取り組んできたが、学校教育目標や様々な「学習・進路」や「生活・健康・人権」「総合的な学習の時間」についての広報活動の必要性は高まっていると思われる。各部署が個別に行うことも大切であるが、ホームページの活用など工夫していきたい。(学校経営会議)
- 26-HR時以外の時間帯での災害発生を想定した防災対策を講じることが肝要である。また、災害や、災害以外でも交通機関が止まって下校できない場合の学校留め置き時の対応を考える。備蓄倉庫物品を職員に周知するため、職員会議等で資料として配付する。校内に不審者がいた場合の合図を確認して職員に周知させる。(防災委)

6. 地域による学校評価

(1) 地域による学校評価について

地域の方の意見をより回収しやすくするために、近隣の保育園や幼稚園に協力を求め、それぞれの施設に通う園児の保護者にもアンケートを提出していただいた。今年度は全体で25枚の回収があった。

・地域による学校評価アンケート

下記の内容について、問題や意見があるがある場合は記載していただくように用紙を作成した。

- 項目 1、教育活動について…生徒は積極的に活動を行っていると思いますか。学校行事や部活動など教育活動全般についてお気づきの点をお知らせください。
- 2、地域貢献について…学校と地域との間で連絡や調整は十分に図られていると思いますか。また、生徒は地域に対する貢献していると思いますか。学校と地域の関わりについてお気づきの点をお知らせ下さい。
- 3、生徒の様子…生徒のふだんの様子（学校生活、登下校、バスの使用マナー など）でお気づきの点をお知らせ下さい。
- 4、その他…何かございましたらご自由にお書きください。

おおむね問題がなく、記載事項が無い場合は空欄ではなくチェックを入れていただくようにした。

記載内容の抜粋(回収枚数 25枚)…同様な意見はまとめるようにして記載した。

◎教育活動について

- ・文化祭などで大勢の人が来場し、バスなどが利用しにくくなる場合がある。
- ・部活の様子を見ているととても楽しそうだ。
- ・中学校ができて、近隣に住む者が進学しにくくなってしまっているのが心配だ。

◎地域貢献について

- ・バスなどで挨拶をする姿をよく見る。こどももまねをしてくれると良いと思った。
- ・吹奏楽部が地域のために演奏をしてくれて感謝をしている。小さい子がいると生の音を聞きに行けないので良かった。
- ・運動会の手伝いをしてくれていたのが南高生だとは気づかなかった。
- ・学校の施設が充実していてびっくりした。地域にも開放できる部分は解放してほしい。

◎生徒の様子

- ・道を広がって歩いてることを見かける。是非注意してほしい。
- ・高校生は体格も大きく、大勢いるとちょっと怖い感じもあったが、地域行事でのこどもへの接し方を見て、高校生への意識が変わった。

(2) 地域による学校評価の全体考察と今後の課題・改善策

ご意見の内容からは、概ね良い印象をお持ちのようである。だが、地域住民の皆さんとふれあえる機会が少なく、それが理解につながらないことが読み取れる。

今年度は南高祭を2日間公開するようにし、そのためホールでの公演時間が増えた。その時間を利用し地域にある2つの小学校のダンスや合唱の出演もしていただいた。これや中学校の開校もあり小学生の来校が増えた。

教育基礎や個々の部活動を通して地域に貢献できる活動をしているが、「自己探求」での地域清掃や文化祭での取組も含めて、今後とも学校としてできることを考えていきたい。

7. 学校関係者評価委員会による学校評価

(1) 平成24年度 学校関係者評価委員(敬称略)

リーダー(委員長) :	坂野 慎二	(玉川大学大学院 教授)
	高森 政雄	(港南区連合町内会長連絡協議会会長)
	石川 直弘	(同窓会会長)
	北崎 熙	(後援会会長)
	大越 雅也	(PTA会長)
	今関 裕美子	(PTA副会長)
	落合 玲子	(下永谷小学校 校長)
	織茂 篤史	(元横浜市立学校校長、桐蔭学園嘱託)
	高木 展郎	(横浜国立大学 教授)
	田澤 慶暁	(元明治大学附属中野・八王子中学校・高等学校常勤理事)
	野木 秀子	(元横浜市教育委員)
	春口 廣	(関東学院大学 教授)
	菱刈 範之	(南高等学校 校長)
	高橋 正尚	(南高等学校附属中学校 校長)
	吉田 信幸	(南高等学校 校長代理)
記録担当者	花房 勉	(学校評価部会・事務局)
	金子 一雄	(学校評価部会・事務局)

(2) 学校関係者評価委員からの意見や指摘内容

1 横浜市立高等学校教育振興プログラムの推進状況

□特色ある学校づくりの推進

- ・南高校は進学指導のモデル校を目指して進路が保証できる授業スタイルを構築すべきである。その授業スタイルを今後2年間で築いて欲しい。
- ・中高一貫教育校と南高等学校の教育理念をバランス良く持っていく必要がある。現高校生については南高校の教育理念に配慮しながら学校運営を行うべきである。学力向上と人間教育をバランス良く丁寧に行うことが大切である。
- ・1学年5クラス体制というクラス数が少ない学年組織のメリットを生かした学校づくりを期待する。教員は6年間持ち上がり指導するのか、中高教員が前後期で指導を分担するのかなど、先進校や私立校などの取組を研究して、中高一貫教育校として有効な教育活動の仕組みを作りたい。
- ・平成27年度からの1クラスの募集について、どのような生徒が入ってくるか5クラス募集での生徒の進路状況などが外進生1クラスの希望者に影響を与えることになるので、現南高校において魅力ある教育活動が実践されることを望む。

2 教育活動の状況

(1) 各教科等の状況

□教育課程の状況について

- ・週時間数を32時間とする教育課程を実施したこと、単位制から学年制に移行し必修科目を増加させ、国公立大学の受験に対応した教育課程としたことは評価できる。
- ・家庭学習時間の増加を目指した取組や朝学習の実施、教員の研修の充実、夏期講習の充実やサテライト授業の実施、キャリア教育の工夫など学力向上に向けた教育活動への取組を行っていることは、評価できる。今後も、そのような取組を一層充実させていく必要がある。
- ・学習活動と部活動・学校行事とのバランスについて研究していく必要がある。

□教科指導の状況について

- ・生徒による授業評価を全年次・全科目について実施し、授業改善に役立てていることは評価できる。また、アンケートの結果において、評価数値が非常に良い教科が見られ、教員と生徒の信頼関係の高さや教員の授業における指導方法の工夫が読み取れる。そのような教科で行われている有効で効果的な指導を他の教科にも広げたいことを望む。
- ・朝学習などお互い教え合いながら学ぶ場の設定や家庭学習の充実を図る指導、小テストやドリルを活用し家庭で学習した内容が授業で定着するような授業を実施していることは評価できる。今後もそのような指導や取組を一層充実させて欲しい。
- ・評価基準や評価方法について、生徒、保護者に説明していきこうとする姿勢や教科内の複数の教員間で基準や指導内容を統一していきこうとする姿勢は評価できる。今後も評価基準や評価方法を明示し、生徒に学びの目標を明確に示して欲しい。
- ・授業レベルをある程度引き上げて、力を伸ばす姿勢も必要である。理解度は低下するかもしれないが、取り組んで欲しい。

□特別活動・部活動の状況について

- ・行事・部活動はさかんに行われており、生徒・保護者とも充実感を感じる割合が多く評価できる。

□生徒指導・教育相談の状況について

- ・問題行動を取る生徒は少数かもしれないが、バスの乗車や登校下校時のマナーにおいてより一層

の向上を目指す指導、取組が望まれる。

- ・生徒と教員との関係を深めるためにも、教員が生徒と向き合えるような時間の確保に努めて欲しい。

□進路指導の状況について

- ・ほぼ100%の生徒が上級学校に進学する状況において、より適切な時期や方法による計画的、組織的な進路指導を望む。

□保健指導及び環境美化の状況について

- ・保健指導や人権指導などについては、保護者アンケートで「わからない」と回答する数が多いが、取組自体は行われているので、それらの活動について広報する必要がある。学園広場などの学校だよりやHPを活用して教育活動について、保護者や地域の方々への情報を伝える仕組みを一層工夫することを望む。
- ・自己探求（総合的学習の時間）の時間を通して、1・2年次でそれぞれ地域の清掃を行った取組は評価できる。地域との交流活動にも一層取り組んで欲しい。

2 学校経営の状況

(1) 管理運営等の状況

□教育目標の設定・実施状況について

- ・中高一貫教育校と南高等学校の教育理念をバランス良く持っていく必要がある。現高校生については南高校の教育理念に配慮しながら学校運営を行うべきである。学力向上と人間教育をバランス良く丁寧に行うことが大切である。中学1期生が高校に入学する平成27年度を目安に学校教育目標の統一が望まれる。
- ・南高校の伝統である文武両道の精神を大切にしたい。今の生徒は十分にできる資質がある。
- ・1学年5クラス体制というクラス数が少ない学年組織のメリットを生かし、きめ細かい教育活動を実践していく必要がある。また、平成27年度の外進生1クラスの教育課程はについても、魅力あるものとしてくことを臨む。

□組織運営及び教職員研修の状況について

- ・人事制度では現教員の半分は異動対象者であり6年間を見据えた指導は難しい。異動制度の一層の弾力的な運用を委員会に要望する必要がある。
- ・大学受験に対応できる授業づくりが求められており、視察研修を積極的に行っていることなど評価できる。その成果を校内の教員に広めるよう研究授業の実施など、研修内容の共有に努めて欲しい。

□学校経理、施設・設備及び情報の管理状況について

- ・中高一貫教育校として安心安全な施設維持が図れるよう、建築から20年経過し老朽化して校舎設備のメンテナンスの適切な実施を、市教委に強く要望する必要がある。
- ・学校経理面は、おおむね良い評価であるが、透明性の維持に努めてほしい。
- ・地域、保護者、学校関係者の方々による学校ファンドの設置に向け検討していくことが必要である。

(2) 保護者・地域等と連携協力の状況

□保護者・地域等との連携協力の状況について

- ・南高校設置の経緯に鑑み、地域とのつながりが強い学校である。その意味合いを尊重して欲しい。
- ・保護者、地域住民に向けて、学校も教育活動の理解と協力を一層得られるように、学校の様子や教育活動について、さらに発信していく努力が必要である。
- ・地域清掃、小学生が南高施設を利用しての学習活動、運動会のボランティア、保育園を招いての演奏披露など、地域に協力活動をしていることは評価できる。

□危機管理の状況について

- ・23年3月の東日本大震災を受けて、防災対策への関心が高まった。PTAの協力により、学校独自の防災倉庫備蓄物品の充実を図ったことは評価できる。今後、災害時等の時には、生徒は原則として、当初は学校留め置きとなるが、その場合の保護者への連絡や生徒の引き渡し方、状況判断の上での方面別の集団下校など、今後生徒の安全を最優先して考えてほしい。
- ・メール配信を取り入れ、災害時の有効な保護者への連絡手段として活用することは評価できる。未登録者や新入生保護者等への登録を呼びかける努力を続けてほしい。

□学校に関する情報公開の状況について

- ・PTA協力によるメール配信システムを、有効に活用されていることは評価できる。ホームページを利用して情報を発信するため、ホームページの定期的な更新を図る必要がある。